



団体名 刈谷市赤十字奉仕団

事業名 赤十字ハートフェスティバルⅢ ～たいせつな未来のために～ [令和7年度まちづくり活動]

事業の紹介



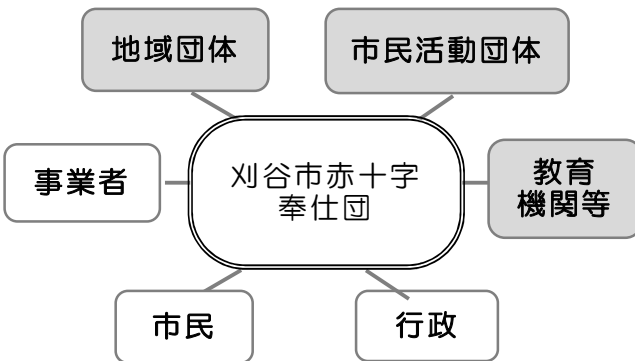
補助金額 20万円 / 総事業費 72万円

赤十字の「人道」・「博愛」・「奉仕」の精神に基づき赤十字の理念の普及、啓発及び育成に努め、地域のニーズに応えつつ、地域での安心で安全なまちづくりに対して積極的に奉仕することを目的とした団体です。

取り組みとしては①日本赤十字社の啓発②防災ボランティア③研修事業④募金活動⑤子ども向け防災教育⑥献血運動⑦講習普及事業⑧その他（子どもの居場所づくり）等の活動を行っています。「かりや夢ファンド補助金」は、赤十字ハートフェスティバルⅢの事業イベントの一つ、かるた製作費用として活用されました。



協働の役割分担



教育機関等 ＜役割＞	刈谷市教育委員会 ＜指導・助言・後援＞ 刈谷市内小中学校＜指導・助言＞
市民活動団体 ＜役割＞	刈谷防災ボランティア＜指導・助言＞ 防災リーダー会＜指導・助言＞ ボランティア連絡協議会＜指導・助言＞ 他市町奉仕団＜当日参加・交流＞
地域団体 ＜役割＞	自治連合会＜地区への呼びかけPR＞ 日赤愛知県支部＜指導・助言・後援＞ 日赤刈谷市地区＜指導・助言・後援＞ 刈谷市女性の会＜打合せ・PR・企画＞

取組みの流れ

こんな想いでスタートしました

「人を救う、又人の為になる防災教室で知識・技術を身につける事を子どもたちに伝え、行動できるようにしたい」これを刈谷市内の小中学校に広めて行きたいという想いのもと赤十字奉仕団はこの取組みをスタートしました。昨年からは、子どもたちが安心して過ごせる『第三の居場所』を提供し、食事の提供や学習支援、団らん等を通じて孤立、孤独等の課題を抱える子どもたちを地域で恒常的に支援するなど、地域に根ざした福祉事業も始めました。

こんな準備をして取り組みました

防災かるたの作成にあたり事前に刈谷市内の全小中学校に依頼、読み句を募集した所、6282 通の応募がありました。選ぶにあたっては、50音それぞれの読み句候補を絞り、内容が重なっている場合は選び直すことを何度も繰り返し行い決めました。団員は読み句にあう絵札の図案を作成したり、防災士の立場で解説をつけるなど、子どもたちが遊びながら学べるよう、想いが込められた可愛いかるたができました。

こんな点を工夫しました

子どもたちが防災に興味を持ち、防災を考える機会づくりとして、かるたづくりを考えました。市内の小中学校を通じて、かるたの読み句を募集、子どもたちに考えてもらうことで、未来を担う子どもたちに防災を考える機会と意識の向上を持てるよう工夫しました。読み札には解説文を付けて、理解を深める工夫をしています。

●「まちづくりコーディネーター」は、刈谷市民のまちの課題を「自分ごと」と考え、取り組んで行くために、参加のよびかけ・対話・活動の運営をお手伝いしています。

★「かりや夢ファンド」は、刈谷市民が「刈谷のまちをよくしていく」活動を応援する補助金制度です

【問合せ】 刈谷市役所 市民協働課 TEL0566-95-0002 詳細は市ホームページをチェック！ >>



こんな活動をしました！

日時：2025年11月15日（土）13時00分～16時00分

場所：刈谷市総合文化センター 小ホール

参加者：450名 運営者 93名

広報媒体：市民だよりと新聞への掲載、刈谷市全地区回覧板、各種団体・かるた

表彰者へのチラシ配布、刈谷市内小中学校・市民ボランティア活動センター・各地区市民館へポスター掲示

内容：地域の防災意識を高めるため、市内の小中学生から読み句を募集し防災かるたを作成し、当日は採用された子どもたちの表彰式を行いました。表彰式の後にはNPO法人プラス・アーツ理事長永田宏和氏による講演会を行い、困りごとを俯瞰して見ることで、巻き込める人に気づき、義務や責任で行っていた防災イベントを、もっと楽しく、能動的に、大学生、高校生を運営側に引きこむことができた経験談を聞くことができました。会場では同時開催として、防災食作りやチャイルドビジョン等を体験して回るスタンプラリー等、楽しく防災を学ぶ仕掛けづくりが多数ありました。来場者の笑顔があちらこちらで見ることができ、大盛況なイベントでした。



現場の様子

こんな効果がありました

かるたの読み句を小中学生から募集したので、子どもたちが防災に興味、関心を持ってくれました。小さな子どもでもかるたを通じて、遊びの中で無意識に防災の芽が育つといいなあと思っています。防災かるた、式典、記念誌の班を設けて、それぞれ分担し効果的に進めることができました。

こんな課題がありました

式典で表彰式を行ったので、多くの子どもとその親が参加してくれた一方で、表彰式が終わると親子連れはすぐに帰ってしまいました。永田先生の講演を子どもたちとその親にこそ聞いて欲しかったです。かるた表彰式で式典に子どもたちを招き出せたものの、子どもたちに真の意味で参加を促す所までには届かなかった点が次回以降の課題です。

今後に向けて

永田氏のお話（イザ！カエルキャラバン！）を参考に、今後は子どもたちが能動的に参加したくなるような仕掛けづくりを考えていきたいです。刈谷市は幸いな事に近年大きな災害に見舞われることが無く、このせいか危機感が薄いように感じています。こういった啓発活動を継続して行い、危機管理を高めるようにしたいです。

参加者の声

- ・かるたの内容が多岐にわたりよく考えられていると思った。（NPO法人プラス・アーツ永田氏）
- ・かるたが素敵で防災教育ツールとして使えるので是非借りたい。（碧南市赤十字奉仕団）
- ・チャイルドビジョンを体験してこんなに狭いと思っていなかった。運転時には子どもに気を付けようと思った。（市民）
- ・非常持出袋を背負ったら重かった。災害時これを背負うのは大変。厳選しようと思った。（市民）

主催団体の声

赤十字奉仕団の団員は熱意がある方ばかりで、今回の準備も業者をお願いするのは最小限とし、団員たちの力で大抵の事は実施できました。これは日頃から顔の見える関係づくりを大切にしてきたからこそできたと思います。

取材を終えて…まちコの感想

- ・子どもたちを巻き込んだ防災かるたがとてもかわいくて、表彰された子どもも嬉しかったらと思います。本当に素晴らしい活動だと感動しました。まちコをやっていて良かったです。（鈴木 小枝）
- ・団員の方一人一人が真剣に、且つ楽しく取り組んでいる様子を拝見しました。また次世代の担い手づくりに対する想いも感じ、想いだけでなくかるたづくりというアクションを起こし、フットワークの軽さと団結力は羨ましく、いずれ私もこんな活動をしたいと思いました。（上村 礼子）

ご感想や「参加したよ」等は
こちらから▼

